

平成17年度 北陸地方建設事業推進協議会 建設技術報告会

実施報告書

平成17年11月

北陸地方建設事業推進協議会
建設技術報告会実行委員会

目 次

1. 開催概要	1
2. 実施内容	4
3. 準備及び運営	7
4. 広報	10
5. アンケート	13
6. 実施状況	21

1. 開催概要

1) 目的

北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催する。

2) 開催日時等

平成17年9月15日(木) 13:00～17:55

13:00～13:10 開会式

北陸地方整備局 企画部長 望月 達也

(代理 技術企画官 波多野 匠)

13:10～14:00 記念講演

「城下町の遺産－金沢・第3の川

都市環境・防災によみがえる用水網」

北國新聞社論説委員会論説委員

米田 満

14:05～17:40 技術報告

報告技術39技術(3会場)

17:45～17:55 閉会挨拶

北陸地方整備局

金沢河川国道事務所 所長 伊藤 正秀

3) 開催会場

○会場

財団法人 石川県地場産業振興センター

石川県金沢市鞍月2丁目1番地

TEL: 076-268-2010

○使用室

・開会式 1F 大ホール

・記念講演 1F 大ホール

・報告会場(定員)

第一会場 1F 大ホール(482名)

第二会場 2F 第1研修室(96名)

第三会場 3F 第5研修室(105名)

計683名

・閉会式 1F 大ホール

4) 構成及び報告時間

記念講演と技術報告会の2部構成とし、技術報告会は3会場、1題15分で4～5題毎に5分間の質疑・応答を行った。

5) 報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題である下記6テーマより分類して報告を行った。

- ①雪に強い地域づくり
(克雪対策、冬期道路交通の安全確保・安全性に関する新技術等)
- ②良いものを安く
(生産性向上、コスト縮減、省力化に関する新技術等)
- ③自然災害からの安全確保
(危機管理、土石流などの防災に関する新技術等)
- ④環境の保全と創造
(建設副産物、リサイクル、省エネルギーに関する新技術等)
- ⑤ゆとりと福祉
(情報化、バリアフリーに関する新技術等)
- ⑥その他
(その他①～⑤に属さない技術)

6) テーマ別報告技術数

テーマ名	報告数
①雪に強い地域づくり	5
②良いものを安く	10
③自然災害からの安全確保	7
④環境の保全と創造	8
⑤ゆとりと福祉	0
⑥その他	9
計	39

7) 主催

この報告会は、北陸地方建設事業推進協議会の活動の一環として、関係諸団体に構成した「平成17年度北陸地方建設事業推進協議会『建設技術報告会』実行委員会（実行委員長：北陸技術事務所長）」の主催で実施した。

実行委員会構成機関及び委員は以下のとおり。

役員	所 属	役 職	氏 名	氏名(前任)
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	平田 五男	
委 員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課長	新田 恭士	
委員	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	吉田 弘	
委 員	富山県 土木部 企画用地課	技術管理係長	吉岡 浩二	
委 員	石川県 土木部 技術管理課	課参事兼課長補佐	八代 英一	
委 員	日本道路公団関東第一支社 新潟管理局 ※	課長代理兼サブリーダー	中沢 寿幸	
委 員	(社)日本土木工業協会 北陸支部	技術委員長	坂巻 明人	
委 員	(社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	天尾 雅実	
委 員	(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	青木 和之	田辺 修
委 員	(社)日本建設機械化協会 北陸支部	普及部会委員	榎 紀洋	
委 員	(社)新潟県建設業協会	契約制度室長	圓山 文史朗	
委 員	(社)富山県建設業協会	常務理事	木田 昭司	
委 員	(社)石川県建設業協会	常務理事	金谷 進	
委 員	北陸土木コンクリート製品技術協会	技術開発部会委員長	五十嵐 正之	
委 員	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	事務局長	滝沢 俊次	
委 員	北陸PC防雪技術協会	事務局長	村田 佳久	
委 員	北陸建設リサイクル協会	理事長	釜谷 治平	
委 員	新潟県融雪技術協会	技術委員長	横山 政俊	
委 員	(財)新潟県建設技術センター	業務部長	菊池 潔	
委 員	北陸地質調査業協会	事務局長	小松 正義	吉岡 稔
委 員	(社)北陸建設弘済会	理事・事業調査室長	内山 宏文	
事務局	北陸地方整備局 北陸技術事務所	副所長	宮村 兵衛	
事務局	北陸地方整備局 北陸技術事務所	建設専門官	小泉 倫彦	

注) 1. 実行委員会構成員は、平成17年9月15日(木)現在

2. 前任は平成17年4月26日(火)第一回実行委員会以降の異動者

※平成17年10月1日より「東日本高速道路(株)新潟管理局」に変更

8) 聴講者数一覧表

機関名		平成16年度 聴講者数		平成17年度 聴講者数			
		当日聴講者数		聴講申込数		当日聴講者数	
		計		計		計	
国土交通省	北陸地方整備局	65	79	63	76	86	98
	他地方整備局	14		13		12	
その他省庁・公団	その他省庁・公団	0		0		2	
自治体関係	新潟県	16	18	5	5	5	5
	新潟県 市町村	2		0		0	
	富山県	2	2	3	3	3	3
	富山県 市町村	0		0		0	
	石川県	9	9	0	0	26	26
	石川県 市町村	0		0		0	
	長野県	0		0		0	
	福島県	1		0		0	
	山形県	1		0		0	
日本道路公団	日本道路公団 北陸支社	1		5		5	
小計		111		89		139	
協会等：主催	(社)新潟県建設業協会	37		5		4	
	(社)富山県建設業協会	1		0		0	
	(社)石川県建設業協会	0		28		16	
	(社)日本土木工業協会	42		50		29	
	(社)日本道路建設業協会	42		100		64	
	(社)日本建設機械化協会	51		32		21	
	北陸土木コンクリート製品技術協会	8		22		16	
	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会	13		14		10	
	北陸P C防雪技術協会	7		5		4	
	北陸建設リサイクル協会	0		0		0	
	新潟県融雪技術協会	2		0		0	
	(財)新潟県建設技術センター	7		2		2	
	北陸地質調査業協会	6		10		5	
	(社)建設コンサルタンツ協会	15		6		4	
	(社)北陸建設弘済会	10		4		5	
	小計		241		278		180
協会等：その他	(社)日本埋立浚渫協会	9		24		20	
	(社)日本測量協会	0		0		0	
	(社)建設電気技術協会	40		0		0	
	(財)先端建設技術センター	0		1		0	
	(財)河川情報センター	0		1		0	
	(社)雪センター 北陸支部	0		1		0	
	(財)道路保全技術センター	1		4		1	
	(財)ダム技術センター	0		0		0	
	(財)ダム水源池環境整備センター	0		0		0	
	(財)リバーフロント整備センター	0		0		0	
	(財)砂防地すべり技術センター	0		0		0	
	(財)日本建設情報総合センター	0		1		1	
	(財)経済調査会 北陸支部	0		0		0	
	(財)国土開発研究センター	0		0		0	
	(中)全国コンクリート製品協会	-		2		2	
	北陸構造物維持補修技術研究会	-		15		18	
	一般（加入協会不明を含む）	34		20		56	
	小計		84		69		98
学校		1		0		0	
報道		6		0		2	
発表者		35		39		39	
小計		42		39		41	
(官 公 庁 合計)		111		89		139	
(民 間 合計)		367		386		319	
合計		478		475		458	
スタッフ	官	9	23	18	29	18	29
	民	14		11		11	

2. 実施内容

1) プログラム

次のプログラムに沿い実施した。

プログラム		第二会場 - 2F 第一研修室 -	
開会式・記念講演 - 1F 大ホール -		14:00~14:05 移動	
13:00~13:10	開会式 副会長挨拶 北陸地方整備局 企画部長 望月 達也 記念講演 北國新聞社論説委員会論説委員 米田 満 氏	14:00~14:05 移動	
13:10~14:00	第一会場 - 1F 多目的ホール -	14:00~14:05 移動	
14:00~14:05 移動		14:05~15:25	
14:05~15:25	PRMS 多機能工法の凍結抑制舗装への適用 渡邊 直利 (福田道路株式会社)	テーマ②	耐凍害効果 100%アップのコンクリートの製造方法 青山 宏昭 (株式会社ミルコン)
テーマ①	斗たわみ性凍結抑制舗装について 原 克也 (株式会社植木組)	テーマ②	運水機能を兼ね備えた排水性舗装 (POSMAC) の開発 平戸 利明 (東亜道路工業株式会社)
テーマ①	食品廃棄物を原料に用いた有機系凍結防止剤の開発 山内 寛 (ハザマ技術研究所)	テーマ②	New DREUM 工法の開発 今村 秀雄 (大豊建設株式会社)
テーマ①	凍結抑制舗装の耐久性の向上と効果の持続性 鈴木 秀夫 (株式会社ガイアアート T・K 技術研究所)	テーマ②	交通規制を最小限に抑えたトンネルの増修・補強技術 島中 保 (筑建設株式会社)
テーマ①	凍結防止剤自動散布設備 (消雪ハイクイット型) の効果的制御 松原 晋 (株式会社関和)	テーマ②	トンネルバルーン 一環エコンクリートータル発工法 - 佐藤 幸三 (西松建設株式会社)
15:25~15:30 休憩		15:30~16:35	
15:30~16:35	災害時における迅速な、斜面・地すべりモニタリングシステムの構築 石崎 則昭 (株式会社豊和)	テーマ②	D.M 施工機 (二軸式) の低改良率機械の開発 伊藤 彰浩 (株式会社本間組)
テーマ③	AE 計測による岩盤斜面の安定監視 堀谷 智基 (飛島建設株式会社)	テーマ②	プレキャスト埋設型枠使用による跨路橋上部工の施工 高田 勝 (前田建設工業株式会社)
テーマ③	液状化を考慮した性能規定型耐震設計へ地下構造物や河川堤防を対象として 佐藤 誠一 (日本工営株式会社)	テーマ②	延長床版プレコンポ工法の開発 若山 裕泰 (株式会社ガイアアート T・K)
テーマ③	無線バケット式通信方式を用いた地盤災害モニタリングシステムの開発 矢部 満 (応用地質株式会社)	テーマ②	スライドゲートによるシールド発達・剥離工法について 小野 崇 (佐藤工業株式会社)
16:35~17:40		16:35~17:40	
16:35~17:40	大規模地すべりにおける集水井の最適配置によるコスト削減 倉岡 千郎 (日本工営株式会社)	テーマ②	非開削工法 (光硬化工法) による管更正 松島 良和 (大林道路株式会社)
テーマ③	PG スノーシェルターの改良 若林 修 (北陸 PC 防雪技術協会)	テーマ⑥	グレーチング蓋の跳ね上がり防止金具「グレーチングストップバー」の開発について 中村 利明 (丸通建設株式会社)
テーマ③	振動センサーを用いた土石流および斜面崩壊検知技術の開発 大角 恒雄 (日本工営株式会社)	テーマ⑥	ライフサイクルコストに着目した PC 橋の計画 武田 祐二 (社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会)
テーマ⑥	龍谷橋アーチ橋の建設 今枝 拓也 (大成建設株式会社)	テーマ⑥	可搬式ナランバープレート観測装置による交通流動解析 三好 克治 (株式会社オリエンタルコンサルタンツ)
17:40~17:45 閉会準備・移動		17:40~17:45 閉会準備・移動	
17:45~17:55	閉会式 北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」実行委員会委員長 (北陸地方整備局 北陸技術事務所 平田 五男 氏)	技術報告テーマ ①雪に強い地蔵づくり ②良いものを安く ③自然災害からの安全確保 ④環境の保全と創造 ⑤ゆとりと福祉 ⑥その他	
技術報告テーマ ①雪に強い地蔵づくり ②良いものを安く ③自然災害からの安全確保 ④環境の保全と創造 ⑤ゆとりと福祉 ⑥その他			

第三会場 ー3 F 第五研修室ー

14:00~14:05	移動
14:05~15:25	テーマ④ 環境に配慮した回転翼入鋼管杭工法 窪田 敬昭 (鹿島道路株式会社)
テーマ④	石川県での運動性舗装の適用事例 高畑 浩二 (株式会社NIPPONコーポレーション)
テーマ④	カキ殻の有効利用技術 土佐 啓幸 (本間道路株式会社)
テーマ④	機引式遮水シートによる地下漏水型構築工法 (ラテナビウォール工法) の開発 横山 脚彦 (清水建設株式会社)
テーマ④	リサイクル素材を利用した発熱フレートの開発 藤井 伸之 (株式会社アドヴァンス)
15:25~15:30	休憩
15:30~16:35	テーマ④ 電気駆動式テレスコピッククラムシェルの開発と稼働実績ー地下鉄建設工事における最良最低限の設備ー 勝沼 清 (株式会社コマツ)
テーマ④	被災地の周辺環境に配慮した河川堤防の復旧事例について 近藤 宏樹 (新潟県長岡地域振興局)
テーマ④	車道漏水性舗装について 会口 資也 (北川ヒューテック株式会社)
テーマ⑥	既設管路の継手部簡便化技術「マクマロック工法」 品田 浩一 (藤村ヒューム管株式会社)
16:35~17:40	テーマ⑥ LRT (超低床路面電車) 軌道の施工 水倉 一夫 (日本道路株式会社)
テーマ⑥	ブラックプールの減圧表改訂表使用による減圧管理実績 岩佐 実 (鹿島建設株式会社)
テーマ⑥	超多点注工法による既設構築物直下地盤の液状化対策技術 大野 康年 (東亜建設工業株式会社)
テーマ⑥	増體シートによるアママ場造成法 長山 英樹 (東洋建設株式会社)
17:40~17:45	閉会準備・移動
技術報告テーマ	
① 画に強い地域づくり ② 良いものを安く ③ 自然災害からの安全確保 ④ 環境の保全と創造 ⑤ ゆとりと福祉 ⑥ その他	

なお、プログラムは、報文と共に報文集として製本した。

2) 記念講演

演 題：「城下町の遺産ー金沢・第3の川 都市環境・防災によみがえる用水網」

講演者：北國新聞社論説委員会論説委員 米田 満

講演概要：金沢の用水網は加賀藩の初代前田利家から5代の綱紀の時代にほぼでき上がった。55本・総延長150kmと言われる用水網は、歴史遺産であり、資源でもある。現在では水路の要所々々にかま場を作り、火災時等ポンプ取水し消化活動ができるように整備を進めており、また、流雪溝として利用されているところもある。今後は防災面から先人が残した、財産を有効に活かしてより良い生活環境を作っていくことが大切である。

3) 報告技術一覧表 (機関別)

協会・機関名	テーマ	報文題名	所属・勤務先
新潟県	④	被災地の周辺環境に配慮した河川堤防の復旧事例について	新潟県長岡地域振興局
日本土木工業協会	①	半たわみ性凍結抑制舗装について	株式会社植木組
	①	食品廃棄物を原料に用いた有機系凍結防止剤の開発	ハザマ技術研究所
	③	AE計測による岩盤斜面の安定監視	飛鳥建設株式会社
	⑥	庵谷橋アーチ橋の建設	大成建設株式会社
	②	New DREAM工法の開発	大豊建設株式会社
	②	交通規制を最小限に抑えたトンネルの補修・補強技術	鉄建建設株式会社
	②	トンネルバルーン ー覆工コンクリートトータル養生工法ー	西松建設株式会社
	②	DJM施工機（二軸式）の低改良率機械の開発	株式会社本間組
	②	プレキャスト埋設型枠使用による跨線橋上部工の施工	前田建設工業株式会社
	④	横引き式遮水シートによる地下遮水壁構築工法（ラテナビウォール工法）の開発	清水建設株式会社
	④	リサイクル素材を利用した発熱プレートの開発	株式会社アドヴァンス
	⑥	ブラックプール減圧表改訂表使用による減圧管理実績	鹿島建設株式会社
	⑥	超多点注入工法による既設構造物直下地盤の液状化対策技術	東亜建設工業株式会社
	⑥	播種シートによるアマモ場造成法	東洋建設株式会社
日本道路建設業協会	①	PRMS多機能工法の凍結抑制舗装への適用	福田道路株式会社
	②	遮水機能を兼ね備えた排水性舗装（POSMAc）の開発	東亜道路工業株式会社
	②	非開削工法（光硬化工法）による管更正	大林道路株式会社
	④	環境に配慮した回転貫入鋼管杭工法	鹿島道路株式会社
	④	石川県での遮熱性舗装の適用事例	株式会社NIPPOコーポレーション
	④	カキ殻の有効利用技術	本間道路株式会社
	④	車道透水性舗装について	北川ヒューテック株式会社
	⑥	LRT（超低床路面電車）軌道の施工	日本道路株式会社
建設コンサルタント協会	③	液状化を考慮した性能規定型耐震設計 ～地下構造物や河川堤防を対象として～	日本工営株式会社
	③	大規模地すべりにおける集水井の最適配置によるコスト削減	日本工営株式会社
	③	振動センサーを用いた土石流および斜面崩壊検知技術の開発	日本工営株式会社
	③	無線パケット式通信方式を用いた地盤災害モニタリングシステムの開発	応用地質株式会社
	⑥	可搬式ナンバープレート観測装置による交通流動解析	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
機械化協会	①	凍結抑制舗装の耐久性の向上と効果の持続性	株式会社ガイアートT・K技術研究所
	②	延長床版プレコンボ工法の開発	株式会社ガイアートT・K本社
	⑥	グレーチング蓋の跳ね上がり防止金具 「グレーチングストッパー」の開発について	丸運建設株式会社
	④	電気駆動式テレスコピッククラムシェルの開発と稼働実績 ー地下鉄建設工事における環境負荷低減の取り組みー	株式会社コマツ
新潟県建設業協会	③	災害時における迅速な、斜面・地すべりモニタリングシステムの構築	株式会社興和
富山県建設業協会	②	スライドゲートによるシールド発進・到達工法について	佐藤工業株式会社
北陸土木コンクリート製品技術協会	②	耐凍害効果100%アップのコンクリートの製造方法	株式会社ミルコン
	⑥	既設管路の継手部耐震化技術「マグマロック工法」	藤村ヒューム管株式会社
プレストレスト・コンクリート建設業協会	⑥	ライフサイクルコストに着目したPC橋の計画	PC建設業協会
北陸PC防雪技術協会	③	PCスノーシェルターの改良	北陸PC防雪技術協会
新潟県融雪技術協会	①	凍結防止剤自動散布設備（消雪パイプ併設型）の効率制御	株式会社興和
11 機関		39 技術	

3. 準備及び運営

- 1) 平成17年度 北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」スケジュール
平成17年度の建設技術報告会は以下のとおり実施した。

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
推進協議会運営委員会	○									
実行委員会		① 4/26(火)							② 11/22(火)	
事務局事前準備										
報文募集(各機関毎)		4/27(水)	5/20(金)							
報文募集(概要版作成)		4/27(水)	6/3(金)							
発表課題選定			6/3(金)	6/20(月)						
採否通知			6/20(月) ○							
本原稿作成			6/20(月)	8/8(月)						
プレゼンテーションデータ作成			6/20(月)	8/19(金)						
報文集編集印刷					8/8(月)	9/5(月)				
聴講者募集(各機関毎)				7/11(月)	9/9(金)					
ホームページ開設・運用		5/6(金)	報文募集用 6/3(金)	聴講募集用 8/19(金)	9/9(金)					
記者クラブ・業界紙投込み					9/12(月) ○					
記念講演										
チラシ原稿作成・印刷			5/30(月)	聴講募集用						
報告会開催						9/15(木) ○				
決定事項(実行委員会)	・実施計画(案)の承認 ・予算(案)の承認 ・募集要領(案)の承認									・決算報告 ・実施状況報告

2) 主な経緯

会議名等	実施日	場所	内容
「建設技術報告会」 第一回実行委員会	平成17年4月26日(火)	白山会館	実施計画書(案)の承認 予算(案)の承認
「建設技術報告会」開催	平成17年9月15日(木)	石川県地場産業振興センター	
「建設技術報告会」 第二回実行委員会	平成17年11月22日(火)	白山会館	実施状況報告 決算報告 会計監査報告

3) 報告会当日の運営体制

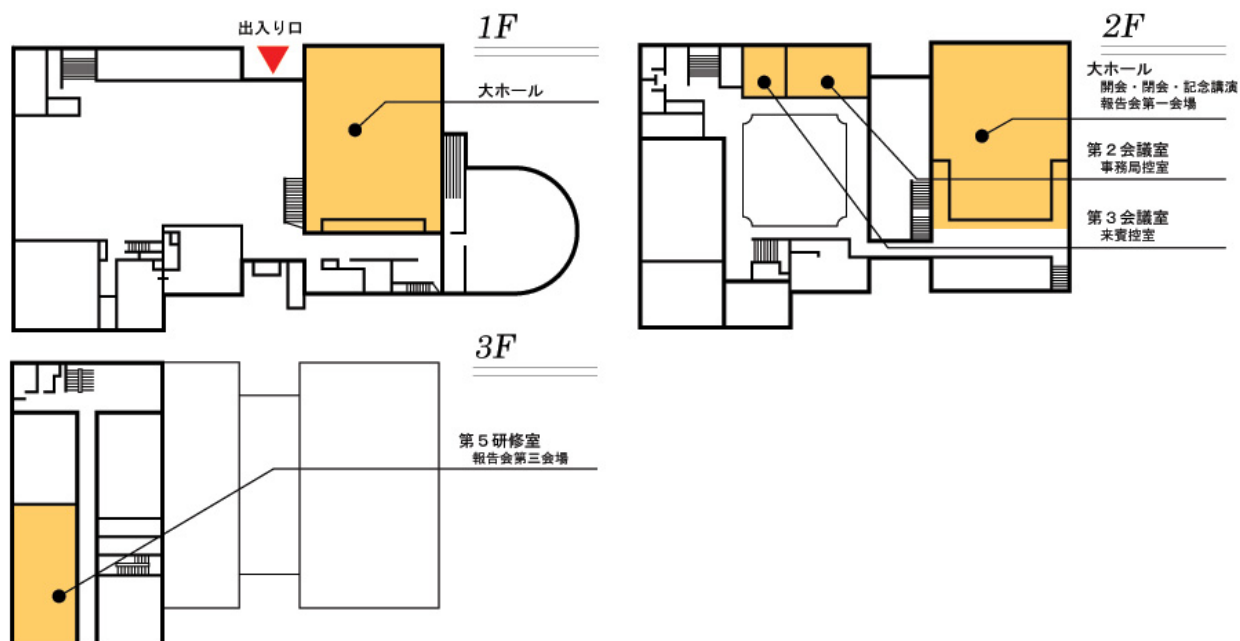
役割		必要人数	国土 交通省	石川県	石川県 建設業 協会	日本土木 工業 協会	日本道路 建設業 協会	日本建設 機械化 協会	建設 コンサルタンツ 協会
受付	開始～記念講演終了	12 人	1 人	4 人	2 人	2 人	2 人	1 人	
	記念講演終了～報告会終了	3 人		(1 人)		(1 人)	(1 人)		
報告 会	司会者	6 人	3 人			1 人	1 人		1 人
	時間管理係	3 人	1 人	(2 人)					
パソコン係		3 人	2 人	(1 人)					
マイク受渡係		6 人	3 人		(2 人)		(1 人)		
会場照明係		3 人	2 人					(1 人)	
事務 局	開会式・記念講演司会	1 人	1 人						
	閉会式司会	1 人	(1 人)						
	VIP・マスコミ対応係	1 人	1 人						
	連絡調整係	1 人	1 人						
	接遇係	1 人	1 人						
写真係		4 人	2 人 (1 人)			(1 人)			
合計人員		-	18 人	4 人	2 人	3 人	3 人	1 人	1 人

() 内の人数は他の役割を兼務。

4) 会場レイアウト

(1) 会場概略図

会場概略図

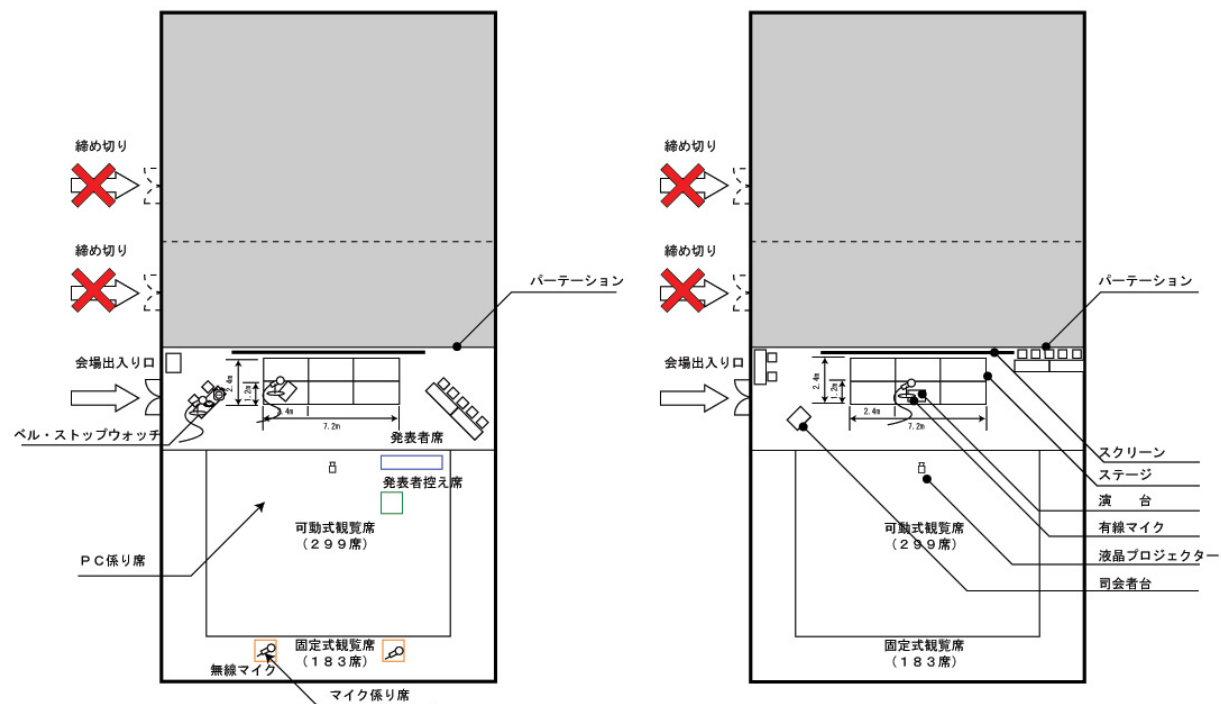


(2) 会場配置図 (別紙－会場配置図参照)

○第一会場配置図 (開・閉会式、記念講演時 報告会時)

第一会場 (大ホール)
技術報告会時

第一会場 (大ホール)
開閉会・記念講演時



○第二・第三会場配置図（報告会時）

第二会場（第一研修室）

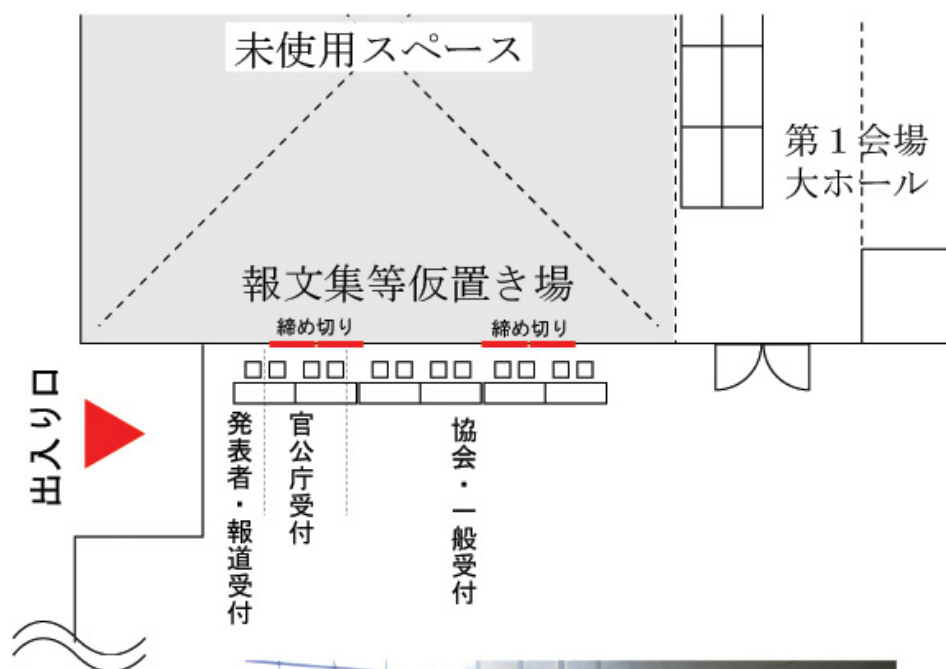
第三会場（第五研修室）



○受付配置図

受付位置図

1F 第1会場前（大ホール前）



1) 広報活動内容

内 容		依頼等時期	掲載確認	備考
ポスター配布		8月12日配布	—	フェアポスターに掲載
チラシ配布		8月12日配布 9月11日新聞折込	—	フェアチラシに掲載
リーフレット		4月27日配布	—	報文募集用
		7月11日配布	—	聴講募集用
月刊誌等	北陸の建設技術	—	8月号裏表紙掲載	
	ほっとほくりく	—	8月号チラシ折込	
	あかしや通信	—	3月号掲載	
	北技情報	—	8月号掲載	
記者クラブ投込み	新潟県政記者クラブ 新潟県政記者クラブ 富山県政記者クラブ 石川県庁記者クラブ	9月12日	—	フェア同日投稿
業界紙投込み	日刊建設通信新聞社 北陸支局	9月12日	—	フェア同日投稿
	日本工業経済新聞社 新潟支局		—	
	日刊建設工業新聞社 北陸総局		9月16日	
	建設ジャーナル		—	
	建設速報社		—	
	新潟建設工業新聞社		—	
	北陸建設工業新聞社		—	
	北陸工業新聞社新潟支局		—	
	市町村新聞社		—	
	中部建設新聞社		—	
	実業新報社		—	
	日刊建設産業新聞社		—	
	日刊工業新聞社金沢支局		—	
	ホームページ開設		北陸技術事務所	
		8～9月		聴講募集用

(1)開催前掲載

(裏)

[illegible]

平成17年度 北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」 聴講申込書											
「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催するものです。 本報告会は、今回で10回目となり、昨年は行政・民間の技術者の方が聴講されました。											
PROGRAM											
開会式・記念講演 ー大ホール【第一会場】ー											
12:50~13:00	開会式 開会挨拶 北陸地方整備局 企画部長 望月 達也										
13:10~14:00	記念講演 北陸新聞社社論委員兼編集委員 米田 満 氏										
技術報告 ー第一会場・第二会場・第三会場ー											
14:05~15:25	技術報告										
14:25~15:30	休 息										
14:30~17:40	技術報告										
17:45~17:55	閉会式 開会挨拶 北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」実行委員会委員										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">貴社名</td> <td style="width: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">住 所</td> <td style="padding: 5px;">TEL FAX</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">聴講者氏名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"></td> <td></td> </tr> </table>	貴社名		住 所	TEL FAX	聴講者氏名						申し込み、問い合わせ先 〒950-0110 新潟県新潟市山田2310-5 FAX 025-231-1283 国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所内 北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」実行委員会事務局 建設部専門官 小泉（内線611） 副所長（技） 宮村（内線205）
貴社名											
住 所	TEL FAX										
聴講者氏名											

(1) 開催前掲載



日本道路建設機械化協会 北陸支部
「あかしや通信 2005.3 no.26」お知らせページ



北陸地方整備局 北陸技術事務所
「北技情報 2005.8 no.24」特集ページ



- ・ポスター
- ・チラシ
- ・「北陸の建設技術 2005.8」裏表紙



北陸地方建設事業推進協議会
建設技術報告会

[>>トップページ](#)
[>>プログラム](#)
[>>技術報告【第一会場】](#)
[>>技術報告【第二会場】](#)
[>>技術報告【第三会場】](#)
[>>主催](#)

建設技術報告会

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催するものです。
本報告会は今回で10回目となり、昨年は行政・民間の技術者の方が聴講されました。

開催場所

石川県地産産業振興センター
住所：920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目1番地
電話：076-268-2010
アクセスマップ

開催日

平成17年9月15日(木)

スケジュール

受付開始	12:30～12:50	大ホール前【第一会場前】
開 会	13:00～13:10	大ホール【第一会場】
記念講演	13:10～14:00	大ホール【第一会場】
技術報告	14:05～17:40	【第一会場】【第二会場】【第三会場】
閉 会 式	17:45～17:55	大ホール【第一会場】

技術タイトル

第1会場（大ホール）

- PRMS多機能工法の凍結抑制舗装への適用
- 半たわみ性凍結抑制舗装について
- 食品廃棄物を原料に用いた有機系凍結防止剤の開発
- 凍結抑制舗装の耐久性の向上と効果の持続性
- 凍結防止剤自動散布設備(消雪パイプ併設型)の効率的制御
- 災害時における、迅速な、斜面・地すべりモニタリングシステムの構築
- AE計測による岩盤斜面の安定監視
- 液状化を考慮した性能規定型耐震設計～地下構造物や河川堤防を対象として～
- 無線パケット通信方式を用いた地盤災害モニタリングシステムの開発
- 大規模地すべりにおける集水井の最適配置によるコスト削減
- PFSノズルシュタールの改良
- 振動センサーを用いた土石流および斜面崩壊検知技術の開発
- 庵谷橋アーチ橋の建設

技術タイトル

第2会場（第1研修室）

- 耐凍害効果100%アップのコンクリートの製造方法
- 透水機能を兼ね備えた排水性舗装(POSMAC)の開発
- New DREAM工法の開発
- 交通規制を最小限に抑えたトンネルの補修・補強工法
- トンネルバールン覆工コンクリートータル養生工法
- DM施工機(二軸式)の改良・車機機の開発
- プレキャスト埋設型枠使用による路線橋上部工の施工
- 延長床版プレコン工法の開発
- スライドゲートによるシールド推進・到達方法について
- 非開削工法(光硬化工法)による管更正
- クレーニング蓋の鉄ね上がり防止金具「クレーニングストッパー」の開発について
- ライフサイクルコストに着眼したPC橋の計画
- 可変式ナンプラート観測装置による交通流動解析

技術タイトル

第3会場（第5研修室）

- 環境に配慮した回転貫入鋼管杭工法
- 石川県での透水性舗装の適用事例
- カキ殻有効利用技術
- 横引き式透水シートによる地下止水壁構築工法(ラテナビウォール工法)の開発
- リサイクル素材を利用した発熱プレートの開発
- 電気駆動式テレスコピックグラウンドの開発と稼働実績 - 地下鉄建設工事における環境負荷低減の取り組み -
- 被災地の周辺環境に配慮した河川堤防の復旧事例について
- 車道透水性舗装について
- 既設管路の継手部耐震化技術「マグマロック工法」
- LRT(超倍床路面電車)軌道の施工
- ブラックブル満圧表破訂表使用による満圧管理実績
- 超多点注入工法による既設構造物直下地盤の液状化対策技術
- 播種シートによるアマモ場造成法

申し込み

聴講のお申し込みは下のPDFファイルをダウンロードし、9月9日迄に申込用紙記載の連絡先にお申し込みください。

 [聴講申込書をダウンロード](#) (右クリック→対象をファイルに保存)
申込書を開くにはAdobe Acrobat Readerが必要です。
Adobe Acrobat Readerをお持ちでない方は、下のアイコンをクリックしてAcrobat Readerをインストールしてください。



北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」実行委員会

2005年(平成17年)9月16日(金曜日)

日刊建設工業新聞
9月16日掲載



冒頭、北陸地方整備局の望月企画部長(代理)があいさし。「北陸地域の特性を踏まえた技術が多い。新技術活用システムに認定されたものもあり、積極的に活用して欲しい」と述べた。

報告は補装や防災、環境、合理化技術など、各部門に分か

防災関連の発表目立つ 金沢で建設技術報告会

北陸建設事業協議会
推進

最新の研究成果を集めた「建設技術報告会」が15日、金沢市の県地産産業振興センターで開かれ、雪害、環境やコスト削減、合理化・効率化など、各分野で延べ39点の発表が行われた。特に、地下構造物や河川堤防を対象とする液状化性能規格型耐震設計をはじめ、新潟県中越地震でも活躍した重コンクリート養生の

3会場で行われた。このうち、防災関係では、災害時における迅速な斜面・地すべりのモニタリングシステム構築(興和、A設計)による岩盤斜面の安定監視(飛島建設)、液状化を考慮した性能規格型耐震設計(日本工営)、振動センサを用いた土石流

・斜面崩壊検知技術(同)をはじめ、先端技術を駆使した開発成果が披露された。液状化考慮の性能規格型耐震設計を提起、日本工営

うち耐震設計分野では、日本工営の佐藤一氏が報告。液状化が想定される地盤における河川堤防や地下構造物の設計にあたり、性能規格型耐震設計を実施するうえでの検討事例を紹介した。

河川堤防や排水機場などの地下構造物につい

受付時に報文集、質問用紙とあわせてアンケート用紙を配布し、アンケートを行った。

アンケートの内容は次のとおり。

2) 回収率
アンケートの回収率は以下のとおり。

アンケートの回収率は以下のとおり。

	官 公 庁	民 間	計
配 布 数	1 3 9	3 1 9	4 5 8
回 収 数	3 6	5 2	8 8
回 収 率	2 5 . 9 %	1 6 . 3 %	1 9 . 2 %

回答内容を取りまとめた結果は、別紙のとおりである。

6. 実施状況



開会挨拶
北陸地方整備局 企画部長 望月 達也
(代理 波多野技術企画官)



記念講演
北國新聞社論説委員会論説委員 米田 満氏



記念講演聴講状況



報告会第一会場発表状況



報告会第一会場聴講状況



報告会第一会場質疑応答状況



報告会第二会場発表状況



報告会第二会場聴講状況



報告会第二会場質疑応答状況



報告会第三会場発表状況



報告会第三会場聴講状況



報告会第二会場質疑応答状況



閉会挨拶 金沢河川国道事務所
所長 伊藤 正秀



受付状況



会場入り口看板設置状況



会場聴講者来場状況